町のさまざまな話題を、カメラで追いかけます。

Photo Palette フォトパレット

皆さんの身近で起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの情報を「広報おうら」編集部まで、お気軽にお寄せください。☎47-5007

生クリームでデコレーション！

２月13日、長柄公民館で子どもバレンタインお菓子教室が行われました。でき上がりまで待てない子どもたちは、生クリームをなめながら楽しそうにシュークリームを作っていました。鈴木美麗さん（水立大黒・23区）は、「友達と一緒に作ることができて、とても楽しかったです。生クリームがたっぷり入ったシュークリームを、家族に食べてもらいたいです」と話していました。

邑楽の粉食文化を体験！

２月４日、長柄小学校の５年生90人がそば打ちを体験。邑楽の粉食文化を体験した間下裕貴さん（大谷端宿赤東・31区）は、「そば打ちは、一度やったことがあるけど、みんなで一緒にできてとても楽しかったです。そばは大好きなので、また体験したいです」と話していました。

悲劇を今に伝えるために

２月10日、11日、秋妻公民館でＢ29墜落関連写真展が行われ、1,700人以上の人たちが訪れました。昭和20年2月10日に秋妻の田んぼにＢ29が墜落した当時の写真などを展示。戦争の悲劇や平和の尊さを後世に伝えるために、Ｂ29墜落写真展示世話人会が企画しました。

１００歳おめでとう！

2月12日、髙野ツルさん（開拓・32区）が100歳を迎えました。髙野さんは、「戦争で夫を亡くし、戦後は機織りの仕事をしながら、子どもを育てあげました。好き嫌いせず、何でも食べるようにしています。最近までは、よく歩くことを心掛けていたんですよ」と話していました。

◇町の歴史　連載三百四十回◇◇◇◇◇◇

町の年代記 第42回

細谷清吉（歴史研究家）

細谷右馬助秀国（九）～泉福寺つづき～

籠宮山観音院泉福寺は、細谷右馬助秀国が坪谷の現在地に来住して入道弘林と称した時に建立した寺です。

前号に掲げた「泉福寺古記」のとおりですが戦国時代、兵火にかかりました。江戸時代の寛永二年（一六二五）に再興されました。

延宝三年（一六七五）三月二十九日に、篠塚村泉福寺から御検地御奉行所に差し出した古文書によると、「館林領篠塚村、籠宮山泉福寺中興開山の儀、法印秀栄寛永二年入院より、以来六代住持相続仕り、当年迄五十一ケ年に罷り成り候。本寺は赤岩村光恩寺にて御座候」。明治維新以来廃寺となり、明治二十九年からは坪谷・水立・大黒の共有となりました。

本尊の不動明王は高さ一メートル余りの座像で、須弥檀上に安置されました。地元の老人たちは、その前で「十九夜念仏」といって、毎月十九日には念仏会を開いていました。

昭和四十一年二月十一日、寺の留守番の不注意で火災となり、本尊不動明王と仏像類は堂宇とともに焼失。不動明王の背割れの中には、古文書類がたくさん納められていたと言われます。

泉福寺院号の聖観音像は、寺の東方二百メートルばかりの細谷家中坪谷墓地南接の観音堂に安置されていました。この堂では毎月二十二日夜、坪谷・水立・大黒の人々が「二十二夜待」の月待行事を行っていました。宝暦四年（一七五四）には「西国移し両野三十三所観音霊場第七番」に指定されました。御詠歌は「かずかずのあられ玉ちる篠塚に光を放つ影も頼母し」。「石打のこぶ観音」は六番です。

明治九年、観音堂は廃され観音像は中屋敷持となり、細谷雄太郎持として現在も実在しています。坪谷の稲荷様といわれる「籠宮稲荷神社」については後に述べますが、安永二年（一七七三）、籠宮山泉福寺が山城国紀伊郡（京都府伏見区）の稲荷大明神総本社に分霊を願い出て、安鎮を許可された証文が、細谷長左衛門家に所蔵されています。この坪谷稲荷は泉福寺が申請して祭った社です。今は籠宮稲荷神社となっています。

両野三十三所観音霊場第七番観音像（篠塚坪谷）